



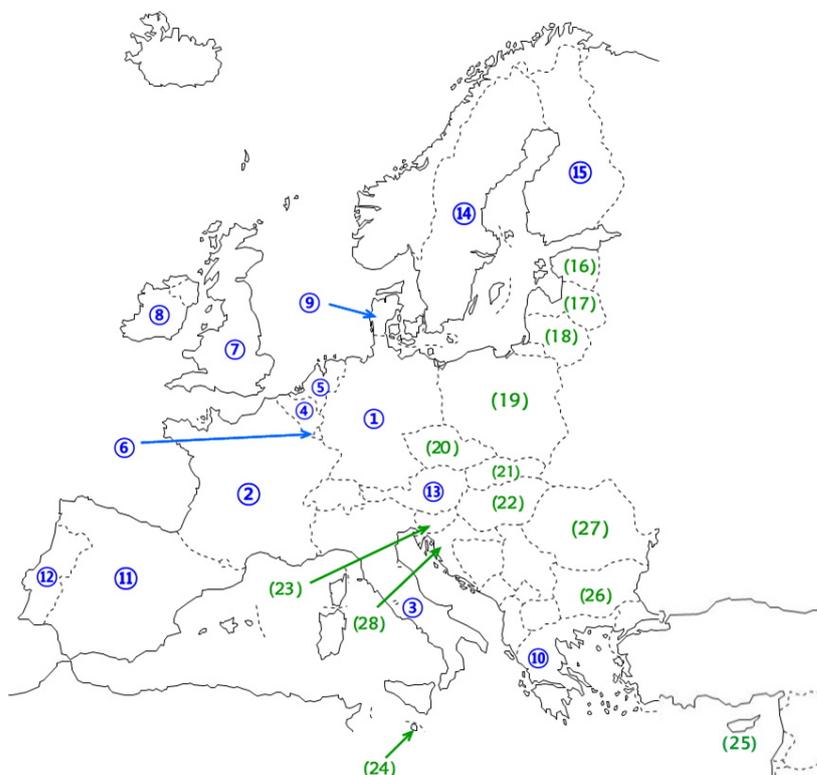
EU法研究会 (ゼミ)

担当 入稻福智

2021年9月30日

問題 以下の文章を読み、カッコ内に適語を入れなさい。

キリスト教にはカトリックとプロテスタントという2大派があるが、南欧で普及しているのは(a)、北欧で普及しているのは(b)である。両者の違いは、政治、法、生活習慣などの様々な点に見いだされる。その例として、(c)、(d)、人工妊娠中絶を認めるかといった点に表れるが、(a)はこれらを認めないのに対し、(b)では認めている。なお、今日、すべてのヨーロッパ諸国は(c)を認めているが¹、地中海に浮かぶカトリック国の(e)は、近年にいたるまで、(c)を認めていなかった。これに北欧のスウェーデンが強く抗議したため²、EU内で激しい争いが発生した。



¹ なお、今日、ヨーロッパのカトリック教徒は法的には離婚できても、宗教的には離婚できない。

² 詳しくは、スウェーデンは離婚をみとめない国の法が準拠法になることに反対していた。

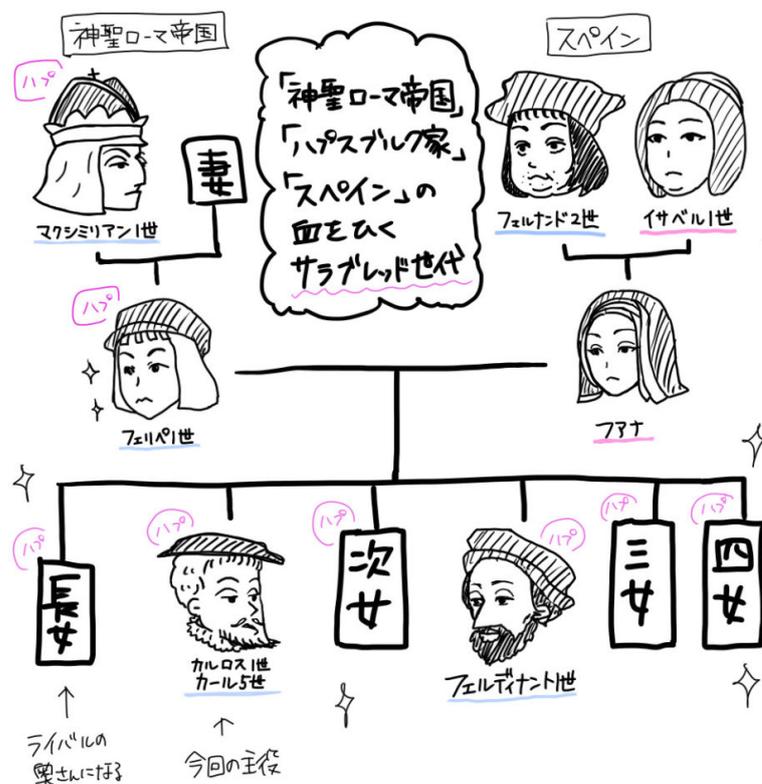
前掲の宗派の内、より古くから存在する宗派、つまり、キリストの直々の弟子達が成立させ、4世紀末頃にはローマ帝国で唯一の国教として公認されるまでになったのは（ ）である。その首長である（ ）は、地上におけるキリストの代理人と呼ばれ、絶大な権威が与えられているが、最初のヨーロッパ人と呼ばれるフランク王国の（ ）は、（ ）年、同首長から西ローマ皇帝の冠を授かった。また、伝統的に、ヨーロッパの皇帝は（ ）から冠を授けられているが、1804年12月、（ ）の皇帝に即位した（ ）は教皇から冠を受け取り、自分で自分の頭の上に載せたと言われている。



「プロテスタント」(protestant) とは「抗議する者」という意であるが、これは従来の教会制度や教皇・聖職者への「抗議」に由来しているのではなく、1529年、神聖ローマ帝国で信仰の自由が(再び)禁止されたことへの「抗議」に依拠している。詳しくは、約500年前の()年()月()日、帝国内で神学教授を務めていた()は、教会の門扉に「 」を掲げ、カトリックの総本山と呼ばれる()の再建設費用を捻出するため、神聖ローマ帝国内で贖宥状(免罪符)を大量に販売していたカトリック教会ないし教皇を批判した。彼が起こした宗教改革は大きな波紋を広げ、帝国(後にヨーロッパ全体)を二分するまでになった。これを沈めるだけではなく、フランス国王との対決やトルコの脅威に備えるため、神聖ローマ皇帝のカール5世は、1526年、シュパイアー(ドイツ南西部にある大聖堂都市)で開かれた帝国議会で、ルターに恩赦を与えるとともに、各領主に信仰の自由(つまり、新旧どちらのキリスト教を信仰するか自由に決定する権利)を与える決議を採択した。しかし、これはカトリック教会の反発を招いたため、皇帝は、1529年の帝国議会で決定を覆した。6人の諸侯と14の都市がこれに抗議(プロテスト)し、信仰の自由を求めたことにちなみ、新教徒はプロテスタントと呼ばれるようになった。



なお、前掲のカール 5 世は、() 家出身であるが、同家が積極的な婚姻政策を進めた結果、カール 5 世は () の王も兼ねていた。



https://cgsc.info/kome_rekishi/spain_3/

同性婚も、現在は、ほとんどのヨーロッパ諸国で容認されているが、それを世界で最初に認めたのはプロテスタント国のオランダである。近年、カトリック教国のスペインが、社会党政権下で同性婚を認めたことは大きな注目を集めたが、同じくカトリック教国である () は、まだ同性婚を認めていない (同性間のパートナーシップのみ認める)。なお、同性婚に関しては、カトリックとプロテスタントといった「南北」格差ではなく、東ヨーロッパと西ヨーロッパという「東西」格差の方が顕著である。つまり、西ヨーロッパ諸国のほとんどは認めているのに対し (その例外が前掲の h である)、東ヨーロッパ諸国 (特に、ロシアやポーランド) は認めていない。

() は地理的には南欧にあたらぬものの、カトリックが広く信仰されており、人工妊娠中絶は憲法で禁止されていた。しかし、2018年5月25日に行われた国民投票で、それを容認すべきとする票が66%に達したことを受け、妊娠12週までであれば中絶手術を受けることが認められるようになった。なお、アイルランド島の北部は () の領土であり、その地域でも人工妊娠中絶は認められていなかったが、現在は「南」と同様に容認されている。